2.(3) コーンカロリーメーターによる燃焼生成ガス測定

装置の概要

コーンカロリーメーターは、円錐型の電熱ヒーターによって試料を加熱し、スパークにより着火、燃焼させ、試料の発熱量、発煙量、重量および燃焼生成ガスの経時変化を測定する試験装置である。今回購入した装置は ISO 5660、ASTM E1354 および NFPA 264Aに準拠しており、その概略図を図 2.(3) - 1に、また実際の装置を図 2.(3) - 2に示す。

燃焼生成ガスについてはCO、CO2、SO2およびNOXの測定が可能である。

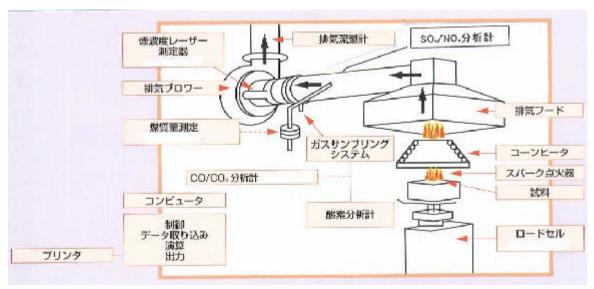


図 2.(3)- 1.コーンカロリーメーター概略図

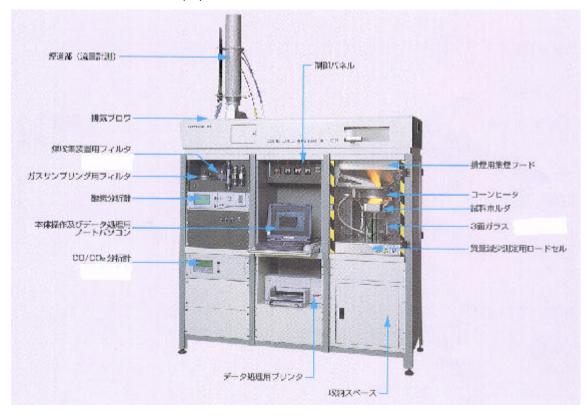


図 2.(3) - 2.コーンカロリーメーター

試料

通常は 10cm × 10cm のシート状に成型した試料について測定するが、本研究では ケーブルを約 10cm に切断し、それらを約 10cm 幅に隙間なく並べたものを試料として 測定した。ケーブル本数は外径に応じて表 2.(3) - 1に示す本数を使用した。

表 2.(3) - 1 供試試料

品名	線心数×サイズ	本数	表面積(m²)	
600VCVT	3 × 8mm²	11 (注 1)	約 0.0094	
600VEM-CET	3 × 8mm²	11 (注 1)	約 0.0091	
CVV	4 × 2mm²	8	約 0.0092	
EM-CEE	4 × 2mm²	8	約 0.0092	
SM 防水型	40 心	10	約 0.0096	
光ファイバーケーブル				
SM 防水型	40 心	9	約 0.0097	
難燃光ファイバーケーブル				

注1)トリプレックスは撚りを戻した単心ケーブルを試料とした。

測定条件

輻射熱量:50kW/m² および 75kW/m²

試料の火炎が消えるまで測定

測定項目

発熱量

煙濃度(減光係数、SEA)

- CO2 ガス発生量
- CO ガス発生量
- SO 2ガス発生量

NOx ガス発生量

試験結果

表 2.(3)-2 および 3 に示す。

また、輻射熱量 50kW/m² での経時変化のグラフを図 2 (3) - 3 ~ 2 0 に示す。

表2.(3)-2 各種ケーブルのコーンカロリーメーターによる燃焼特性 (輻射熱量50kW/m²)

		1					
		ケーブル					
パラメーター	(単位)	CVT	EM-CET	CVV	EM-CEE	防水型光ケー ブル	防水型難燃 光ケーブル
試料ケーブル外径	(mm)	約8	約8	約11	約11	約9	約11
ケーブル本数	(本)	11	11	8	8	10	9
ケーブル長	(cm)	約10	約10	約10	約10	約10	約10
試湎積	(m ²)	約0.0094	約0.0091	約0.0092	約0.0092	約0.0096	約0.0097
総ケーブル長	(cm)	約110	約110	約80	約80	約100	約90
平均発熱速度(HRR)	(kW/m²)	142.6	122.3	154.2	132.8	300.6	47.5
発熱量(THR)	(MJ/m^2)	115.6	168.9	126.7	249	234	188.3
平均比減光面積(SEA)	(m²/kg)	924.49	508.22	1105.03	543.1	630.1	718.82
初期ケーブル質量	(g)	145.59	132.13	149.79	132.89	84.72	114.11
最終ケーブル質量	(g)	95.16	89.72	80.08	70.19	27.14	53.33
ケーブル質量減少	(g)	50.43	42.41	69.71	62.7	57.58	60.78
着火時間	(sec)	15.6	44.2	14.2	35	39.5	51.4
平均CO₂収率 ^{*1}	(kg/kg)	1.5109	2.8423	1.1418	2.7635	3.2558	5.8256
平均CO収率 ^{*1}	(kg/kg)	0.0781	0.0275	0.0699	0.0187	0.0318	0.1649
平均SO₂収率 [↑]	(kg/kg)	0.002086	0.000127	0.001220	0.000030	0.000597	0.014209
平均NOx収率 ^{*1}	(kg/kg)	0.000039	0.000093	0.000102	0.000098	0.003812	0.000168
すす収率	(kg/kg)	0.1067	0.0635	0.1323	0.0373	0.0513	0.0777
燃焼時間(試験時間)	(sec)	824.4	1416.8	834.3	1908.8	816.2	4012.3
ケーブル1km当たりの推定発生CO₂量 ^{^2}	(kg/km)	207.80	328.75	99.50	216.59	187.47	393.42
ケーブル1km当たりの推定発生CO量 ^{*2}	(kg/km)	10.74	3.18	6.09	1.46	1.83	11.13
ケープル1km当たりの推定発生SO₂量∗₂	(kg/km)	0.2869	0.0147	0.1063	0.0024	0.0344	0.9596
ケーブル1km当たりの推定発生NOx量 ^{*2}	(kg/km)	0.0054	0.0108	0.0089	0.0077	0.2195	0.0113
ケーブル1km当たりの推定煤発生量 ^{*2}	(kg/km)	14.68	7.34	11.53	2.92	2.95	5.25

^{*1} 平均(CO,CO₂,SO₂,NO)収率は質量損失%が10%から90%間の値。

		ケーブル					
パラメーター	(単位)	CVT	EM-CET	CVV	EM-CEE	防水型光ケー ブル	防水型難燃 光ケーブル
試料ケーブルが径	(mm)	約8	約8	約11	約11	約9	約11
ケーブル本数	(本)	11	11	8	8	10	9
ケーブル長	(cm)	約10	約10	約10	約10	約10	約10
試湎積	(m ²)	約0.0094	約0.0091	約0.0092	約0.0092	約0.0096	約0.0097
総ケーブル長	(cm)	約110	約110	約80	約80	約100	約90
平均発熱速度(HRR)	(kW/m²)	202.4	146.2	157	128.5	381.2	58.7
発熱量(THR)	(MJ/m ^t)	107.3	150.9	117.5	192.3	225	150
平均比減光面積(SEA)	(m²/kg)	1118.56	273.64	1024.1	255.19		143.96
初期ケーブル質量	(g)	145.6	131.14	149.31	133.34	84.67	113.73
最終ケーブル質量 ケーブル質量減少	(g) (g)	94.04 51.56	89.99 41.15	79.24 70.07	72.46 60.88		51.61 62.12
ラーブル <u>員重パン</u> 着火時間	(sec)	6.2	19.7	8.5	17.3	17	22.6
平均CO ₂ 収率 ^{*1}	(kg/kg)	1.2366	2.3327	1.0430	2.3676	2.5802	1.9471
平均CO収率 ^{*1}	(kg/kg)	0.0804	0.0103	0.0732	0.0206	0.0249	0.0318
平均SO₂収率*1	(kg/kg)	0.001730	0.001440	0.002556	0.001055	0.000015	0.001296
平均NOx収率 ^{*1}	(kg/kg)	0.000279	0.000345	0.000714	0.000306	0.003679	0.000405
すす収率	(kg/kg)	0.1296	0.0639	0.1350	0.0668	0.0597	0.0960
燃焼時間(試験時間)	(sec)	534.5	1050.5	756.3	1512.6	606.1	2578.3
ケープル1km当たりの推定発生CO₂量 ^{*2}	(kg/km)	173.89	261.79	91.35	180.17	148.90	134.39
ケーフル1km当たりの推定発生CO量 ^{*2}	(kg/km)	11.30	1.15	6.41	1.57	1.43	2.20
ケーフル1km当たりの推定発生SO₂量 ^{*2}	(kg/km)	0.2433	0.1616	0.2239	0.0803	0.0009	0.0895
ケーブル1km当たりの推定発生NOx量 ^{*2}	(kg/km)	0.0392	0.0387	0.0625	0.0233	0.2123	0.0280
ケーブル1km当たりの推定煤発生量*2	(kg/km)	18.22	7.17	11.82	5.08	3.45	6.63

^{*1} 平均(CO,CO₂,SO₂,NO)収率は質量損失%が10%から90%間の値。

^{*2} CVTとEM - CETはトリプレックスとして1km当たりの発生量。

^{*2} CVTとEM - CETはトリプレックスとして1km当たりの発生量。

まとめ

軟質ポリ塩化ビニルシースを使用した従来品(CVT、 CVV)とエコ電線(EM-CET、EM-CEE)を比べると、

- *発熱量はエコ電線のほうが大きい。
- *発煙量、すす発生量、COガス発生量およびSO2ガス発生量は従来品のほうが多い。
- * CO 2ガス発生量はエコ電線のほうが多い。
- * NOx ガス発生量は若干従来品の方が多い。

また、SM 防水型光ファイバーケーブルと SM 防水型難燃光ファイバーケーブルを比べると、

- *発熱量、NOxガス発生量は防水型光ファイバーケーブルが多い。
- *発煙量、すす発生量は防水型難燃光ファイバーケーブルのほうが少し多い。但し、 SEAで見ると発煙量は防水型光ファイバーケーブルの方が多くなる。
- * CO 2、CO および SO 2ガス発生量は 50kW/m² では SM 防水型難燃光ファイバーケーブルの方がはるかに多い。75kW/m² では、CO 2ガス発生量は SM 防水型光ファイバーケーブルが多く、CO とSO 2ガス発生量は SM 防水型難燃光ファイバーケーブルが多い。
- * NOx は他の 5 種類のケーブルに比べ、SM 防水型光ファイバーケーブルでの発生量が非常に多い。
- 一方、輻射熱量が 50kW/m² から 75kW/m² になると、
- *発熱量は大きな差は見られない。
- *発煙量は CVT を除き減少する傾向が見られる。
- * CO ₂ガス発生量は減少する傾向が見られ、特に SM 防水型難燃光ファイバーケーブルが大きく減少する。 CO ガス発生量は SM 防水型難燃光ファイバーケーブルが大きく減少することを除き、何れも大差ない。
- * SO ₂ガス発生量は CVT と特に SM 防水型難燃光ファイバーケーブルが減少するのに対し、他のケーブルでは増加する。NOx ガス発生量は SM 防水型光ファイバーケーブルについては大差ないが、他のケーブルはすべて増加する。
- *すす発生量はほぼ変化ないか、もしくは若干増加する傾向にある。